

# 剣術家の修行遍歴を追う 解説

## 1 木下家文書と木下勇蔵について

- 埼玉県立文書館収蔵（寄託）の木下家文書は、坂戸市の木下家に伝来。
- 伝書 9 点、門人帳 3 点、英名録 1 点、印章 3 点の計 16 点からなる。すべて木下勇蔵（勇）と彼が館主（館長）を務めた天然理心流道場「水月館」の関係資料。年代は明治時代～昭和初期。
- 木下勇蔵は、明治 12 年（1879）3 月 24 日、入間郡成願寺村（のち大家村）生まれ。明治 26 年に大家村欠ノ上の児島（小島）才三正長が館主を務める天然理心流道場「水月館」に入門。明治 29 年 2 月に正長から切紙、同 39 年 4 月に正長の高弟木村亀吉正整から目録を与えられ、同 42 年 12 月には水月館の館主を継承。同 43 年 12 月には埼玉県から越生警察分署擊劍教授を嘱託され、大正 7 年（1918）2 月に正長の子新平正之から（故人となつた正長の代理として）天然理心流免許を与えられた。[埼玉県立文書館 1995、木下家文書No.1・5・9・16]

## 2 資料を読む前に

### （1）埼玉県域を中心とする剣術史の概要

- 江戸時代中期以降、多くの村にも道場が開かれて武術の稽古が行われた。
- 剣術は特に普及し、様々な流派が発展。  
例) 甲源一刀流、神道無念流、柳剛流、馬庭念流、直心影流、  
奥山念流、真之真石川流、神武一刀流、禪心無形流、…
- 江戸時代後期、竹刀や防具を用いて自由に打ち合う「擊劍」が普及。  
→諸国を巡って多くの武芸者と試合を行う廻国修行（武者修行）が盛行。
- 明治時代になると武術は一時衰退。明治 6 年（1873）の榎原鍵吉による東京での擊劍会興行、同 10 年の西南戦争等を経て擊劍再興の気運。  
→その後、埼玉県域でも各地で擊劍会開催。
- 明治 21 年、秩父出身で小野派一刀流（中西派）を修めた高野佐三郎が、埼玉県警察本部に奉職し、浦和へ移住。  
→同 23 年には道場「明信館」創設、各地に支部を設立していく。
- 明治 28 年、京都に大日本武徳会が創設される。同 33 年、埼玉支部設置。  
同 45 年、浦和の県庁付近に演武場「武徳殿」開設。

- ・明治 41 年、帝国議会で旧制中学校正課への擊劍・柔術編入が可決。同 44 年から実施。  
→この頃、県内には「擊劍流行」と表現される地域もあった。

## (2) 天然理心流道場「水月館」の系譜と実態

- ・天然理心流：鹿島神道流の系統に属し、剣術の他に柔術、棒術なども含む実戦的な総合武術。寛政年間 (1789~1801) に近藤内蔵助長裕(?)~1813) が創始し、関東地方に広まった。
- ・水月館の系譜  
入間郡浅羽村 (現坂戸市) 出身の横田右馬之介正秀が、嘉永年間 (1848~54) に神奈川宿の水月館主桑原永助昌英に入門。安政 5 年 (1858)、水月館を江戸へ移し、一橋家の擊劍教頭を務めるなどし多数の門人を育成。明治時代初め頃に郷里へ帰り、自宅に道場を構えた。→のち、高弟の児島 (小島) 才三正長が継承し、自宅に水月館道場を建てる。[小川 1978]  
→明治 42 年、児島正長の門人である木下勇蔵が継承し、自宅に水月館道場を建てる。[埼玉県立文書館 1995]
- ・入門者は、明治 43 年 2 月以降、昭和 2 年に至る 61 名。住所は現在の坂戸市・鶴ヶ島市・毛呂山町域に集中。[木下家文書No.3・4]

## 3 英名録

- ・「英名録」とは、武芸者が武者修行を行う際に携行した、訪問先で相手方の名前や流派名、日付等を記入してもらうための記録簿。
- ・現在確認されている最古級の英名録…寛政 10~11 年 (1798~99) の「大原傳七郎剣術修行帳」(行田市郷土博物館蔵)。

## 4 語句の解説

- ・甲源一刀流：秩父郡薄村 (現小鹿野町) の逸見太四郎義年 (1747~1828) を流祖とし、秩父地方を中心に、北武藏の北・西部一帯で栄えた流派。
- ・比企郡高坂村大字田木：現東松山市田木周辺。明治 22 年の町村制施行により、高坂村、早俣村、正代村、宮鼻村、毛塚村、田木村、西本宿村、岩殿村が合併して高坂村となった。
- ・鏡新明智流：大和国出身の桃井八郎左衛門直由 (1722~74) が創始した流派。初め「鏡心」と表記したが、後に「鏡新」と改めた。安永 4 年 (1775)

に 2 代目 春蔵直一とともに江戸に道場「士学館」を開く。神道無念流・北辰一刀流とともに幕末三大流派に数えられた。

- ・桃井直敬：鏡新明智流。系譜等の詳細不明。
- ・入間郡川角村：現毛呂山町川角。明治 22 年の町村制施行により、川角村、西戸村、市場村、箕和田村、西大久保村、大類村、苦林村、下河原村が合併して川角村となる。
- ・欠上村：「川角郵字」と、川角村内のように書かれているが、実際は入間郡大家村の内。大家村は明治 22 年の町村制施行により、厚川村、萱方村、成願寺村、欠ノ上村、森戸村、四日市場村、多和目村が合併して成立。
- ・入間郡山根村：現毛呂山町。明治 22 年の町村制施行により、滝野入村、権現堂村、阿諱訪村、大谷木村、宿谷村、葛貫村が合併して滝野入村となり、同 24 年に山根村と改称。
- ・鏡明館：入間郡山根村阿諱訪の鏡新明智流道場。詳細な実態は不明。本資料から、明治 28~29 年時点では桃井直敬が指導し、館員は少なくとも 18 名いたことが分かる。
- ・初野勝藏：入間郡山根村（後述）の人物。「明治 36 年正月には滝ノ入薬師堂に、同志八木原喜助とともに、剣道奉納額を掲げている。鏡心明智流桃井真敬門人である。」[小川 1978]  
→現毛呂山町滝ノ入の在家中薬師堂？桃井「真敬」は「直敬」の誤読か。
- ・実藤甚蔵：阿諱訪の生まれで初め鏡新明智流を修め、のちに木下家の水月館に入門し、阿諱訪に支部を設けた [小川 1978]。
- ※ただし、水月館の門人帳 [木下家文書No.3・4] には名前が見えない。
- ・明信本館：明信館の本館。明信館は、高野佐三郎が設立した剣道場。佐三郎は明治 21 年、埼玉県警察本部に招聘され、浦和（現さいたま市浦和区、現在の埼玉会館付近）に自宅兼道場を建設、これが「浦和明信館」と呼ばれる。郷里の秩父郡大宮（現秩父市）に「明信本館」を建設したのは同 23 年で、これが明信館の正式な創設年とされ、同 30 年までに茨城・群馬・千葉・栃木・神奈川等の数県に支部を設け、館員はおよそ 4,000 人に上ったとされる [中村（宏）家文書 77-188]。
- ・高野佐三郎：秩父郡大宮出身。忍藩剣術指南役を務めた祖父苗正の下で小野派一刀流（中西派）を修めた後、無刀流の山岡鉄舟に剣を学ぶ。明治 41 年には東京高等師範学校の撃剣科講師となつて集団指導法を研究し、大正元年（1912）には「大日本帝国剣道形」制定を中心的な立場で成し

遂げ、同 4 年には剣道指導書『剣道』を刊行するなど、剣術の近代化に貢献。全日本剣道連盟剣道殿堂の第一次顕彰者。

- ・入間郡吉田村白鬚神社：吉田村(現川越市吉田)の「白鬚神社」とみられる。

## 5 木下勇蔵の修行遍歴

- ・巻頭には、智道（朱印「鏡神／名智」と「桃井／直敬」から、桃井直敬の号とみられる）による「忽／然／如／雷」の書を収録。  
→桃井直敬とは特別な関係か。
- ・巻頭には、勇蔵が武道練磨のため訪問した際には御教示を仰ぐ旨、児島正長による明治 29 年 2 月の依頼文あり。  
→勇蔵への切紙伝授は同年同月。切紙伝授により、師から他流試合を許されたとみられる。ただし、桃井直敬や鏡明館員とは前年から試合しており、特別な交流があったとみられる。
- ・記事の年代：明治 29 年 3 月～同 45 年 2 月  
対戦者流派：甲源一刀流、鏡新明智流、直心影流、北辰一刀流、小野派一刀流  
対戦場所：撃剣会会場、自他の道場、寺社境内 等  
修行地域：現在の坂戸市、毛呂山町、東松山市、川越市、鳩山町 等  
→切紙伝授（明治 29 年）以降、水月館主継承（同 42 年）・越生警察分署撃剣教授就任（同 43 年）のしばらく後まで。諸国を巡るのではなく、入間郡・比企郡周辺の比較的狭い範囲で武者修行を重ねた。  
対戦者は甲源一刀流が最多で、地域性を表している。  
鏡新明智流の桃井直敬や阿諱訪の鏡明館とは特別な交流があった。

## ○主要参考文献（副題割愛）

- ・地名に関するもの  
『日本歴史地名大系』平凡社、1979～2004 年
- ・木下家文書に関するもの  
埼玉県立文書館編・発行『諸家文書目録 V』1995 年
- ・武道、剣術の歴史全般に関するもの  
魚住孝至『武道』山川出版社、2021 年  
大保木輝雄『剣道』日本武道館、2022 年  
二木謙一他編『武道』東京堂出版、1994 年
- ・今回のテキストの内容に関するもの  
小川喜内「第四章 七 2 武道」(『毛呂山町史』1978 年)  
埼玉県立歴史と民俗の博物館編・発行『埼玉武術英名録』2022 年  
埼玉県立文化会館編・発行『高野佐三郎』1962 年  
逸見光治『甲斐源氏甲源一刀流逸見家』関東図書、2005 年  
山本邦夫『埼玉武芸帳』さきたま出版会、1981 年